

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	13-055	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Prevalence and correlates of drinking in early pregnancy among women who stopped drinking on pregnancy recognition. 妊娠発覚により禁酒した女性における妊娠初期の飲酒率および関連因子		
執筆者		
Parackal SM, Parackal MK, Harraway JA.		
掲載誌		
Matern Child Health J. 2013 Apr;17(3):520-9. doi: 10.1007/s10995-012-1026-7.		
キーワード		PMID
妊娠可能期の飲酒、多量飲酒、妊娠、妊娠発覚以前		22555945
要 旨		
<p>目的： 妊娠可能年齢にある女性のアルコール常飲は、妊娠初期の飲酒リスクと関連する。大多数の女性は妊娠発覚に伴い禁酒することがこれまでの研究より示されている。本研究では妊娠発覚により禁酒した女性における、妊娠初期の飲酒率および関連因子を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法： 対象は 2005 年にニュージーランドの横断調査に参加した女性 1256 名（無作為抽出）。年齢は 16 - 40 歳。ウェブを介した電話調査システムにより聴取した。</p> <p>結果： 1,256 名のうち、現在妊娠者 127 名、過去妊娠者 425 名。現在妊娠者の 49.6%と、過去妊娠者の 36.7%は、妊娠発覚とともに禁酒したと回答した。ノーリスク飲酒群（定期的な飲酒習慣なし）と比較し、ハイリスク飲酒群（定期的な飲酒習慣あり）で有意に妊娠初期の飲酒オッズ比が高値であった。同様に、16・24 歳の群は他の年齢カテゴリと比較し、有意に妊娠初期の飲酒オッズ比が高値であった。</p> <p>結論： 女性の多くは妊娠を自覚することでアルコール消費を止めるが、発覚の前段階すなわち妊娠初期において、胎児に影響するレベルの飲酒をしていることが判明した。妊娠初期の飲酒リスクは、定期的な飲酒習慣がある者、または若年者で高い傾向がみられた。胎児の健康という観点から、これらハイリスク者に対する積極的な介入が必要であると考えられた。</p>		